ティーチング・ポートフォリオ（教育業績ファイル）

教員氏名	野呂　香

主な担当科目	ミュージカル・イン・イングリッシュⅠ,基礎英語・オーラルⅠ,基礎英語・オーラルⅡ,基礎英語Ⅰ,初級英語・オーラルⅠ,初級英語・オーラルⅡ,初級英語Ⅳ,中級英語・舞台芸術Ⅰ,中級英語・舞台芸術Ⅱ,中級英語Ⅱ

2025年の教育目標・授業に臨む姿勢	昨年に引き続き、演劇や語学の学びを通して、世界で起きている事象を巨視的な視点で見つめる視座を共有すること。演じることによって自己を見つめ、他者の立場から物事を考え思いやる気持ちを育てること。母語ではない言語を学ぶことで『伝える』とは何かを問い直し、『生きた』コミュニケーションと『伝わる』表現力を養うことを実践すること。演劇的手法を用い、Body（身体）、Mind（心）、Spirit（精神）を使ったホリスティックなアプローチを通して、英語は生きたコミュニケーションのツールであることを学生に伝えることが教育目標である。
2025年の教育に関する自己評価	『基礎英語I』では洋楽の歌詞や映画のセリフやから表現を学び、実際に演じることで生きた表現を学び伝える楽しさを共有することができた。『初級英語IV（オーラル）』では、自分と音楽との関わりについてのSelf-introductionやLife Storyをテーマにしたスピーチ・アクティビティ、チャリティーイベントを企画しコンペ形式で競い合うPresentationなどを通して学生の自己表現能力やコミュニケーション能力を高めることが出来た。『中級英語II（舞台芸術）』では映画・絵本・詩などの英語の台詞や文章を題材に演劇的手法を使い、オリジナルの英語演劇作品を創作・上演することで「伝わる」表現力を養うことが出来た。『ミュージカル・イン・イングリッシュI』では自然な発声を促すための呼吸法や演じる身体を養うためのボディ・ワーク／シアターエクササイズをベースに「台詞」の背後にある想いや感情を言葉に乗せて伝える方法を教授することで英語のディクションを高めることが出来た。

2025年のFD活動に関する自己評価	学部・短期大学部・大学院音楽科FD合同研修会に4月・9月ともに参加した。書記を務めた芸術特別研究分科会FDでは、選択科目となった『芸術鑑賞』の在り方について担当の先生方と議論した。ミュージカル分科会FDでは、1年次必修科目「ミュージカル・イン・イングリッシュI」担当教員として学生の様子を共有することで実技を含めた他の科目担当の先生方へのスムーズな引き継ぎが出来た。基礎ゼミ分科会FDでは、異なるコースから集まる学生たちの円滑なコミュニケーションを促進させるためのエクササイズや方法などを他のクラス担当の先生方と共有した。語学分科会FDではセメスター制移行に伴う諸問題を共有し非常勤講師の先生方と共に問題解決に向けて議論を交わした。
授業改善のために取り入れた研修内容	参加した各分科会で特に有意義なのはそれぞれが抱える独自の問題や課題について分科会メンバーと議論を交わすことができる点である。とりわけミュージカル分科会FDは非常勤講師を含む担当教員の出席率が非常に良く、コース全体の方針や方向性を常に確認しながら、問題を抱える学生については教員が一丸となって解決策を検討することで、FDという場が非常に有機的に機能しており学ぶことが多い。例年、FDの共通年間テーマが設定されているが、それぞれの分科会が適宜必要な年間テーマをそれぞれに設定し年間を通してじっくり時間をかけて議論していくことで更に深まる議論もあるのではないかと感じる。

2025 年度（春学期）「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2072　教員名：野呂　香

1）アンケート結果に対する所見
2）要望への対応・改善方策
3）今後の課題

『基礎英語 I（オーラル）』は「授業の取り組みとして音楽大学らしく意義のある授業だと感じます」とのコメントが多数寄せられた。英語が言語の映画のセリフを会話の表現として使った英語学修を実践しているクラスだが、様々なジャンルの音楽映画を使い「活きた」表現を通して学修できるような教材作りを心がけた。こうした実践的な英語表現を学ぶことは「英語によって海外の文化や単語、歴史を知るというところと音楽の幅を広げるということが同時に進行されておりすごく為になった。楽しかった。」とのコメントにも見られるように言語の背景にある異文化理解にも繋がる。授業前半の洋楽を使った穴埋め問題では、歌詞のカジュアルな表現を学べる機会でもあるので今後も継続していきたい。
『初級英語 IV（オーラル）』は正確な英語の発音をマスターし、コミュニケーション力や自己表現能力を高めることを目的としている。映画のワンシーンやスピーチ動画など身近な素材をテキストとして、音楽歴を含む自分自身の自己紹介やライフストーリーを互いに伝えあう形でプレゼンテーションを行なった。「この授業で学んだのは英語だけじゃなくて日本人だとか、英語が話せる話せないとか関係なく人としてコミュニケーションをとる事の素晴らしさを学ぶことができました。」とコメントにあるように発話の機会を増やしたことで伝わる楽しさを実感した学生が増えたようだ。プレイスメントテストで初級にレベル分けされたが実は基本的な文法事項が理解できていない学生もおり、限られた授業数の中で文法事項を確認する時間を確保することが今後の課題である。
『中級英語 II（舞台芸術）』では自身の専門分野でもある「演劇を使った英語教育」を導入／実践している。この学期は映画「The Greatest Showman」（2017）から劇中の楽曲「A Million Dreams」の英語の歌詞や絵本「The Giving Tree」（1964）を教材として舞台創作をした。「回数を重ねていくうちに英語を使って自己表現することの大切さ、みんなで作ったものを人前で発表することの難しさ、そして英語を通して音楽の素晴らしさを体験することができた」とコメントにあるように、皆が協働して一つの演劇作品を作り上げるという経験を通してコースを超えた友達作りやコミュニケーションの場としても貢献できたようである。ワークショップ形式で授業を行っているこの授業のスタイルに適した教室を確保することが例年難しく、C301（第 2 汎用）や C101 などの机や椅子がない空間を自由に使える教室が増えることを今後期待したい。
『ミュージカル・イン・イングリッシュ I』はミュージカルコース1年次の必修科目で、基礎的な英語の発音をマスターし様々な演劇的手法を通して英語のディクションを高めることを目的とした専門性の高いクラスである。総合的満足度が 100%のこのクラスは自由記述が2ページにも渡るほど学生からの反響も大きい。「この授業がなかったらこんなに英語が好きになれなかったと思います。野呂先生自身が英語や舞台を愛していてその素晴らしさを私たちにも気づかせてくれようとしているのが伝わってきてとっても楽しかったです。英語を通して舞台を学ぶことで自分と向き合って、個性を出すことが出来たと思っています。また、舞台に立つ上で自分はどうしなくちゃいけないのか、どうしたいのかを沢山考えて舞台に立つ覚悟が少し成長したなと感じています。」とのコメントに見られるように、演劇によって引き出される個々の表現力に担当教員自身も多くの刺激と学びを得る授業である。半期14回という限られた時間の中で『演じる』ことの真髄にどこまで迫れるかが常に課題である。

以　上

2025 年度秋学期「学生による授業アンケート」結果に対する「授業改善計画書」

教員コード：2072　教員名：野呂　香

1）評価結果に対する所見
2）要望への対応・改善方策
3）今後の課題

『基礎英語 I /オーラル II』は「ワークシートを使った勉強法など耳で聞き目で見て手で書くので覚える要素が満載でとても良かったです。また覚えるだけでなく、英語の勉強の楽しさも教えてくれるクラス、授業体系だと思います」といった内容のコメントが多数寄せられた。英語が原語の映画のセリフを会話の表現として使った英語学修を実践しているクラスだが、様々なジャンルの音楽映画を使い「活きた」表現を通して学修できるような教材作りを心掛けた。こうした実践的な英語表現を学ぶことは「普通に英語の勉強するだけだと飽きてしまうから、映画を使ってワクワクしながら勉強することができて楽しかったです。」とのコメントにも見られるように興味関心を持って言語学習に取り組む原動力にもなったようだ。授業前半の洋楽を使った穴埋め問題では、歌詞のカジュアルな表現を学べる機会でもあるので今後も継続していきたい。

『初級英語 IV /オーラル II』は正確な英語の発音をマスターし、コミュニケーション力や自己表現能力を高めることを目的としている。映画のワンシーンやスピーチ動画など身近な素材をテキストとして、音楽歴を含む自分自身の自己紹介やライフストーリーを互いに伝えあう形でプレゼンテーションを行なった。「英語の授業を通して、ただ単語や文法を覚えるだけでなく、どう伝えれば相手に分かりやすいを考えながら英語を考えるようになりました。先生の授業では基本的な文法だけでなく、クラスの人との関わり合いがたくさんあるため、コミュニケーションで使う英語や、英語だけでなくみんなのいいところをたくさん知れて新たな発見がたくさんありました。」とコメントにあるように発話の機会を増やしたことで伝わる楽しさを実感した学生が増えたようだ。プレイスメントテストで初級にレベル分けされたが実は基本的な文法事項が理解できていない学生もおり、限られた授業数の中で文法事項のおさらいをする時間を増やしていきたい。

『中級英語 II /舞台芸術 II』では自身の専門分野でもある「演劇を使った英語教育」を導入／実践している。この学期は映画「The Greatest Showman」（2017）から劇中の楽曲「A Million Dreams」の英語の歌詞や絵本「The Giving Tree」（1964）を教材として舞台創作をした。「この授業では、ただ英語を学習することだけでなく、身体的なコミュニケーションを行い演劇を通して実践的であり実用的な英語を習得することができると思います。文面で学ぶよりも遥かに習得効率も高いと個人的には思うし、何よりも先生方の授業の工夫がなされていて、英語が苦手な人でも楽しく学習することができると思います。実際、英語に対しての興味がとても沸いたし英語だけのコミュニケーション能力も向上したと思うので、とても教育意義のある授業であったと思います。」とコメントにあるように、皆が協働して一つの演劇作品を作り上げるという経験を通してコースを超えた友達作りやコミュニケーションの場としても貢献できたようである。ワークショップ形式で授業を行っているこの授業のスタイルに適した教室を確保することが例年難しく、C301（第 2 汎用）や C101 などの机や椅子がない空間を自由に使える教室が増えることを今後期待したい。

非常に意欲的に授業に参加している学生がいる一方、常に携帯から目を離すことなく全く授業に参加していない学生や、100分間をほとんど睡眠時間に充てているような学生もおり、厳しく指導をしても改善の余地が見られない学生もいた。大学は義務教育ではないので学ぶ意欲のない学生は「前提としていないはず」だが、ここ数年増加傾向にあるこうした「やる気のない学生」をどのように導いていくかを模索していくことが今後の課題である。

以　上